

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第33週 (8/15-8/21) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		33週	32週	31週	30週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	15	18	18
	眼科	5	3	5	5
	インフルエンザ*	27	22	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	8/15-8/21	8/8-8/14	8/1-8/7	7/25-7/31	8/8-8/14
			33週	32週	31週	30週	32週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	1 0.07	6 0.33	4 0.22	22 0.18
	咽頭結膜熱		2 0.11	2 0.13	3 0.17	6 0.33	27 0.22
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		23 1.28	19 1.27	37 2.06	37 2.06	210 1.72
	感染性胃腸炎		39 2.17	36 2.40	61 3.39	72 4.00	229 1.88
	水痘		2 0.11	4 0.27	3 0.17	5 0.28	32 0.26
	手足口病		21 1.17	25 1.67	51 2.83	67 3.72	182 1.49
	伝染性紅斑		4 0.22	5 0.33	5 0.28	9 0.50	14 0.11
	突発性発しん		16 0.89	13 0.87	12 0.67	13 0.72	45 0.37
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ	↓	55 3.06	51 3.40	80 4.44	100 5.56	357 2.93
	流行性耳下腺炎		3 0.17	7 0.47	8 0.44	22 1.22	82 0.67
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		0 0.00	3 1.00	7 1.40	6 1.20	24 0.77
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 1.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	IGRA検査	アメーバ赤痢	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	70歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認、起因菌の判定
結核	女性	40歳代	IGRA検査等				
結核	女性	40歳代	画像診断	急性脳炎	女性	10歳代	高熱
結核	女性	40歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	10歳代	病原体の検出
腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	播種性クリプトコックス症	女性	50歳代	病原体の検出
	女性	60歳代		-	-	-	-

・第33週は、結核5件(165)、腸管出血性大腸菌感染症2件(9)、アメーバ赤痢1件(6)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(5)、急性脳炎1件(21)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(23)、播種性クリプトコックス症1件(2)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第33週のコメント

＜ヘルパンギーナ＞前週から減少し3.06となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第32週は過去9年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、山形県、新潟県、福島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより若干多めとなっています。

千葉市の第33週は前週より減少し3.06となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(6.0/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)と並び最多となっており、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。若葉区(4.5/定点)では流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報継続基準値(2.0/定点)を上回っています。

2016年第1週から第33週までの累積報告数(n=547)によると、性別では男性が55.2%(302名)、女性が44.8%(245名)で、年齢階級別では1歳(36.2%:198名)、2歳(19.0%:104名)、3歳(13.0%:71名)の順に多くなっています。

